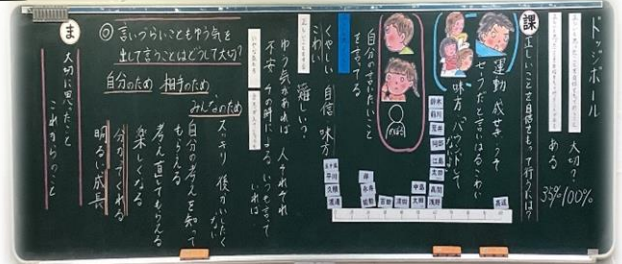


けんしゅうしましよ

道徳 主題名 正しいと思うことは自信をもって
中心内容項目 A-1 主として自分自身に関すること
(善悪の判断・自律・自由と責任)
資料名 ドッジボール
授業者 岩井 裕

5月1日(月)5校時、4年2組において、提案授業が行われました。今年度、目指す授業について、授業参観を通じて理解を深める機会となりました。



◇指導案に関わって

- 指導案上における矢印ですが、今年度からは載せないこととします。
- 子どもに対する私たち教師の関わり方を「伴走者」を軸に前後で柔軟につなげていくことで、子ども学びは一層豊かなものになっていくと考えます。提案研の指導案では、場面毎にそのポジションを示す枠で囲っていましたが、先導者や後援者などの役割は柔軟にその場面に応じて取り入れることが大事かと思えます。そこで指導案上の囲いについてはつけないことで統一したいと思います。なお、今年度研修部では帯広における児童の関わりマップを作成しています。どのような場面にそれぞれのポジションを置くのが適しているのかを、先生方と一緒に模索していき、作成していきたいと思えます。そしてそれが我々の授業改善や児童の主体性を引き出すための意識付けになればと考えております。ご協力、お願いします。

◇板書に関わって

- 「まとめ」に書く内容ですが、昨年度までは納得解を書く際の視点を書いていましたが、今年度からは児童から出された納得解を板書することで統一したいと思います。例えば、書けた子から順次発表させ、それを板書することで、児童の新しい気付きや、書くことで悩んでいる子のヒントにつながればと思います。
- 共通解についてです。共通解は、この時間で何を学んだかについて、児童の導き出したキーワードをもとにまとめてください。課題とのつながりも意識してほしいと思えます。なお、まとめる際には、板書の言葉を囲ったり、色チョークで書いたりしてほしいと思えます。

◇ねらいの設定と実態把握

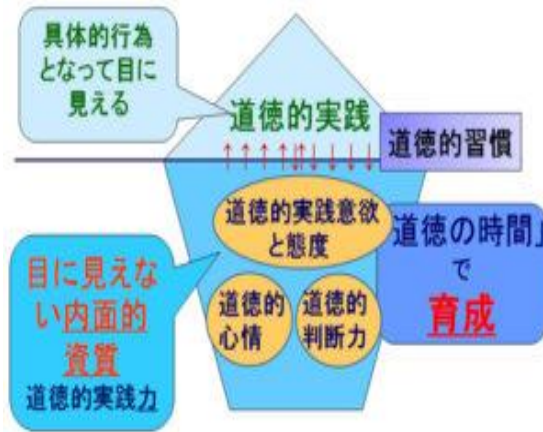
- アンケートはねらいの設定と実態把握のために大切な資料となります。どのような実態があるのかを調査することで、この学級にどのような心が必要なのかが見えてきます。導入のずれを生むためだけでなく、授業をどのように構築していくのかはやはり学級の実態がポイントになります。ただし、実態を改善することも大事ですが、学習指導要領に記載されている発達段階に応じた道徳的価値も踏まえ、何に焦点を当てるかが重要です。そこが見えてくると、課題・展開・共通解が明確になってくるかと思えます。

◇授業参観のポイントについて

- 提案研では、5つのポイントがありましたが、次回以降は少し絞っていきたいと思えます。道徳部会では「発問」を今年度は大事にしていますので、以下の内容を次回の授業研の視点にしたいと思えます。「発問により児童が自走したり、価値についての理解を深めたりするものになっていたか」。を焦点として、参観していただければと思います。

◇心情？態度？判断力？

ねらいを設定する際、心情を育てるのか、態度を育てるのか、判断力を育てるのかについて、どのように設定するのかについてです。まずは心情を育て、そして態度へとステップアップさせていくイメージもありますが、ねらいを設定する際に大切なのは担任の思いであり、その思いは学級の実態が根底にあるかと思えます。学級の児童にどのような力を付けさせたいのか、また、その教材にはどのような力があるのかを踏まえた上で、どのようなねらいがマッチするのかを考え、判断していくのがよいかと思えます。下の資料もご確認ください。



左図は、海面に浮かぶ冰山です。海面上の冰山、すなわち目に見える部分を「道徳的実践」と呼び、具体的な行為、行動を表しています。反対に、海面下、目に見えない部分を「道徳的実践力」と言い、いわゆる心の中、目に見えない「内面的資質」としています。道徳の時間、道徳科ではこの内面的資質である「道徳的実践力」を育成するのが目的です。したがって、「態度」と言ってもあくまでも内面的資質である「目に見えない」ところを育てるのです。

- ☆道徳的心情 ……人間としてのよりよい生き方や善を目指しそれに向かおうとする感情
- ☆道徳的実践意欲と態度…道徳的価値を実現しようとする意志が実践意欲で、具体的な道徳行為への構えが態度
- ☆道徳的判断力 ……それぞれの場面で善悪を判断する能力

◇発問について

今年度は、発問をテーマ発問(主題を掘り下げ、価値についてより深く考えられる発問)と場面発問(登場人物の心情や場面の様子を問う発問)に分け、その中でも特にテーマ発問を意識的に取り入れることを提案させていただきました。そうすることで、登場人物の心情理解に終始することなく、自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深められると考えています。

では、どのようにテーマ発問を取り入れていくかについては、やはり教材や学級の実態にもよるかと思えます。お話を整理しながら価値への理解を深める発問を入れたい場合は、子どもたちの感想を聞きながら板書の中で関係性を整理したり、場面発問を通して登場人物の心情を考えたりし、その後、価値について深めるテーマ発問を入れる方法もあると思います(場面発問とテーマ発問の両方で考えさせていく)。事後研の際に横山先生から「子どもたちの反応に乗せて、もっていたテーマ発問を行う。そうすることで、切り返しの発問が整理されていくと思う」というお話があったように、子どもたちの反応を予想し、どの発言に注目してテーマ発問をしていくかについては、事前に準備しておくことが大切です。今後の指導案検討でも、そういった視点での話し合いもできるとよいのかなと思います(その教材から得る価値について、すでに分かりきっているようであれば、早い段階で教材から離れテーマ発問で揺さぶりながら、理解を深めていく方法もありかと思えます)。

「絶対にこうでなければいけない」というきまりはありませんが、今年度はテーマ発問を授業で意識しつつ、どのような展開がねらい達成に有効かを日常の実践を通して検証してほしいと思います。よろしくお願ひします。

連絡

- ・5月24日(水)の石井先生の授業研は、**3時間目**に行います。(事後研は14:30から会議室)
- ・5月29日(月)の北垣先生の授業研は5時間目に行います。(//)

※どちらの授業研も、全員参加でお願いします。